

青森県経済統計報告

平成 26 年 8 月 5 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 26 年 7 月 1 日現在）…………… 1

県 人 口 1,323,719 人（対前月 766 人減少）	
自然動態	572 人減少（出生者数 711 人、死亡者数 1,283 人）
社会動態	194 人減少（転入者数 1,247 人、転出者数 1,441 人）

2 本県の経済動向（平成 26 年 5 月・6 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。
青森県景気ウォッチャー調査結果によると、先行きについては、消費税増税の影響等を懸念する一方で、回復の動きも見られることから、横ばいを示す 50 を上回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 …… 2
・平成 26 年 5 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 22 年＝100）は、季節調整済指数が 105.8 で、前月比 0.3% の上昇となり、2 カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は 105.8 で、前年同月比 2.1% の低下となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 26 年 6 月の**大口電力使用量**は 2 億 1,469 万 kWh で、前年同月比 10.0% 減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-2) 雇用労働 …… 3
・平成 26 年 5 月の**定期給与**は 220,281 円で前年同月比 0.8% 増となった。**総実労働時間**は 155.0 時間で前年同月比 2.2% 増、**所定外労働時間**は 9.2 時間で前年同月比 12.2% 増となった。
・平成 26 年 6 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 0.80 倍で、前月を 0.03 ポイント下回った。**新規求人倍率**（季節調整値）は 1.08 倍で、前月を 0.14 ポイント下回った。
・**雇用保険受給者実人数**は 7,897 人で、前年前月比 10.1% の低下となった。
- (2-3) 物 価 …… 5
平成 26 年 6 月の**青森市消費者物価指数**（平成 22 年＝100）は、総合指数が 103.8 となり、前月比 0.1% の上昇、前年同月比 4.8% の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 …… 6
・平成 26 年 6 月の**大型小売店販売額**は、全店舗ベースが 142 億円で前年同月比 4.2% 減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは 5.1% 減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 26 年 6 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 4,374 台で、前年同月 4.4% 増となり、10 カ月連続で前年同月を上回った
・平成 26 年 6 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が前年同月比 4.5% 減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設では 2.9% 増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 …… 7
・平成 26 年 6 月の**新設住宅着工戸数**は 528 戸で、前年同月比 25.0% 減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 26 年 6 月の**公共工事請負額**は 226 億 1,400 万円で前年同月比 42.2% 増となり、4 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、累計請負金額は 562 億 6,500 万円で前年同月比 14.1% 減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 …… 8
平成 26 年 6 月の**企業倒産**は、件数は 7 件で前年同月比 40.0% 増となった。負債総額は 13 億 4,500 万円で前年同月比 134.7% 増となった。

（3）景気動向指数 C I（平成 26 年 5 月分）…………… 9

先行指数	105.3（前月を 2.2 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した）
一致指数	126.9（前月を 4.6 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した）
遅行指数	117.1（前月を 4.1 ポイント上回り、4 カ月連続で上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 26 年 7 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I ……	45.7（前期比 0.3 ポイント減、2 期連続で 50 を下回る）
3 カ月後の景気の先行き判断 D I ……	52.0（前期比 17.1 ポイント増、3 期ぶりに 50 を上回る）

1 青森県の推計人口（平成26年7月1日現在）

【概 況】

平成26年7月1日現在の本県推計人口は、1,323,719人で、前月に比べ766人の減少となった。

○自然動態

出生者数が711人、死亡者数が1,283人で、572人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,247人、転出者数が1,441人で、194人の減少となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総 数	男	女	対前月 増減率	増 減 数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
24.10.1	1,349,969	634,196	715,773	-0.041%	-554	-445	736	1,181	-109	1,382	1,491
25. 7. 1	1,337,580	628,017	709,563	-0.045%	-601	-546	683	1,229	-55	1,218	1,273
25. 8. 1	1,337,098	627,880	709,218	-0.036%	-482	-488	813	1,301	6	1,760	1,754
25. 9. 1	1,336,664	627,695	708,969	-0.032%	-434	-508	781	1,289	74	1,854	1,780
25.10.1	1,336,206	627,579	708,627	-0.034%	-458	-523	750	1,273	65	1,563	1,498
25.11.1	1,335,656	627,359	708,297	-0.041%	-550	-526	889	1,415	-24	1,527	1,551
25.12.1	1,334,803	626,931	707,872	-0.064%	-853	-713	732	1,445	-140	1,066	1,206
26. 1. 1	1,333,729	626,454	707,275	-0.080%	-1,074	-756	738	1,494	-318	919	1,237
26. 2. 1	1,332,587	625,865	706,722	-0.086%	-1,142	-1,010	774	1,784	-132	1,042	1,174
26. 3. 1	1,331,624	625,397	706,227	-0.072%	-963	-699	657	1,356	-264	1,028	1,292
26. 4. 1	1,325,767	622,271	703,496	-0.440%	-5,857	-730	745	1,475	-5,127	3,923	9,050
26. 5. 1	1,325,297	622,167	703,130	-0.035%	-470	-714	711	1,425	244	3,608	3,364
26. 6. 1	1,324,485	621,682	702,803	-0.061%	-812	-552	775	1,327	-260	1,252	1,512
26. 7. 1	1,323,719	621,258	702,461	-0.058%	-766	-572	711	1,283	-194	1,247	1,441

6月中の人口動態の推移

（単位：人）

年 月	平16.6	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6	22.6	23.6	24.6	25.6	26.6
自然動態	出生者数	985	831	910	812	862	780	879	853	692	711
	死亡者数	1,064	1,151	1,189	1,173	1,219	1,318	1,289	1,259	1,271	1,283
	自然増減数	-79	-320	-279	-361	-357	-538	-410	-406	-579	-572
社会動態	県外からの 転入者数	1,413	1,434	1,345	1,233	1,366	1,468	1,281	1,506	1,270	1,247
	県外への 転出者数	1,729	1,782	1,807	1,742	1,715	1,477	1,342	1,479	1,236	1,441
	社会増減数	-316	-348	-462	-509	-349	-9	-61	27	34	-194
増減数計		-395	-668	-741	-870	-706	-547	-471	-379	-545	-766

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向

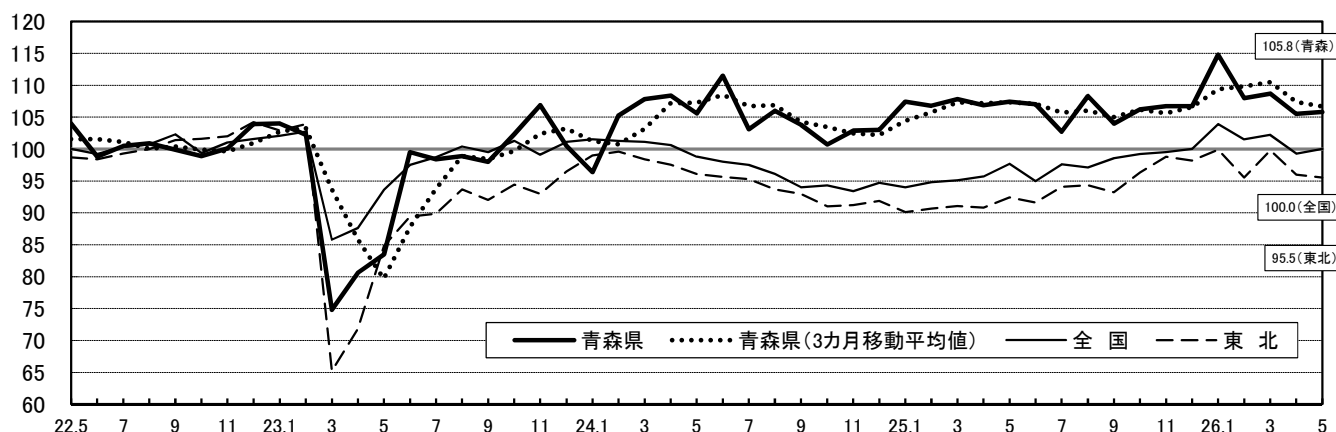
(2-1-1) 製造業の生産

平成26年5月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が105.8で、前月比0.3%の上昇となり、2カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は105.8で、前年同月比2.1%の低下となり、2カ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、非鉄金属工業、電子部品・デバイス工業、鉄鋼業などが上昇に寄与した一方、化学工業、食料品工業、業務用機械工業などが低下し、鉱工業全体では0.3%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

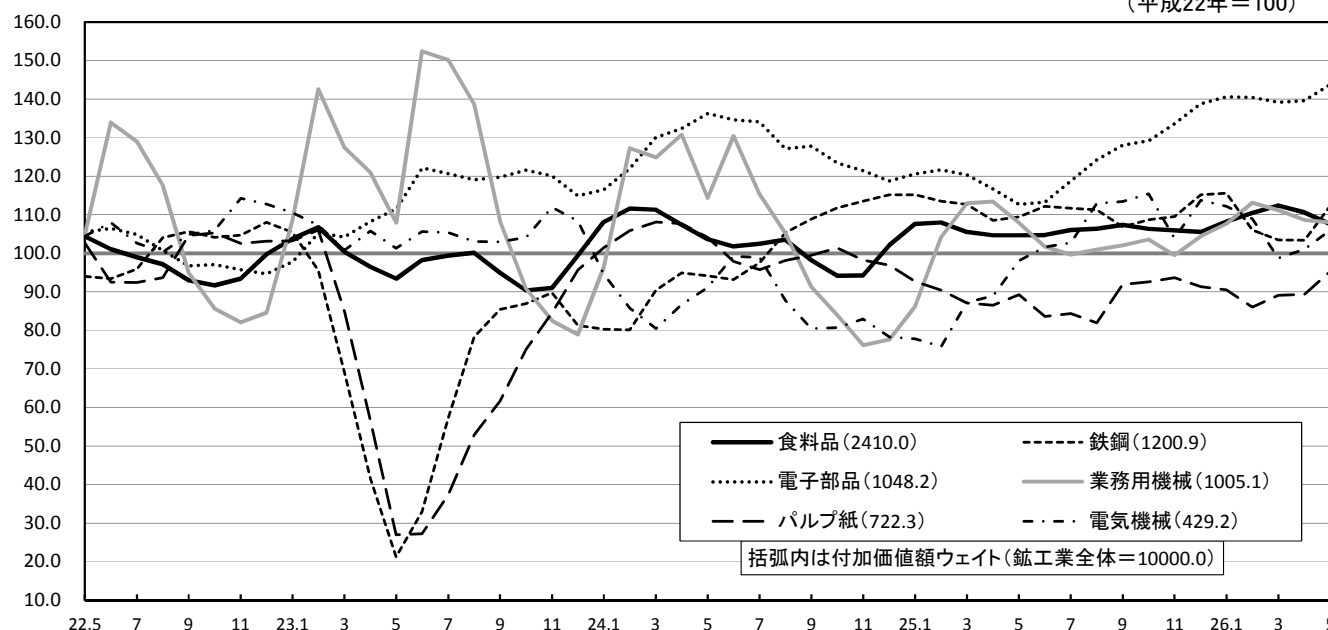


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 0.3%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
非鉄金属工業	86.1	145.0	化学工業	-36.2	-174.9
電子部品・デバイス工業	9.5	140.0	食料品工業	-4.2	-109.8
鉄鋼業	3.2	43.8	業務用機械工業	-2.9	-32.6
輸送機械工業	21.2	42.0	石油・石炭製品工業	-19.3	-25.6
パルプ・紙・紙加工品工業	5.4	36.5	はん用機械工業	-13.3	-12.4

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

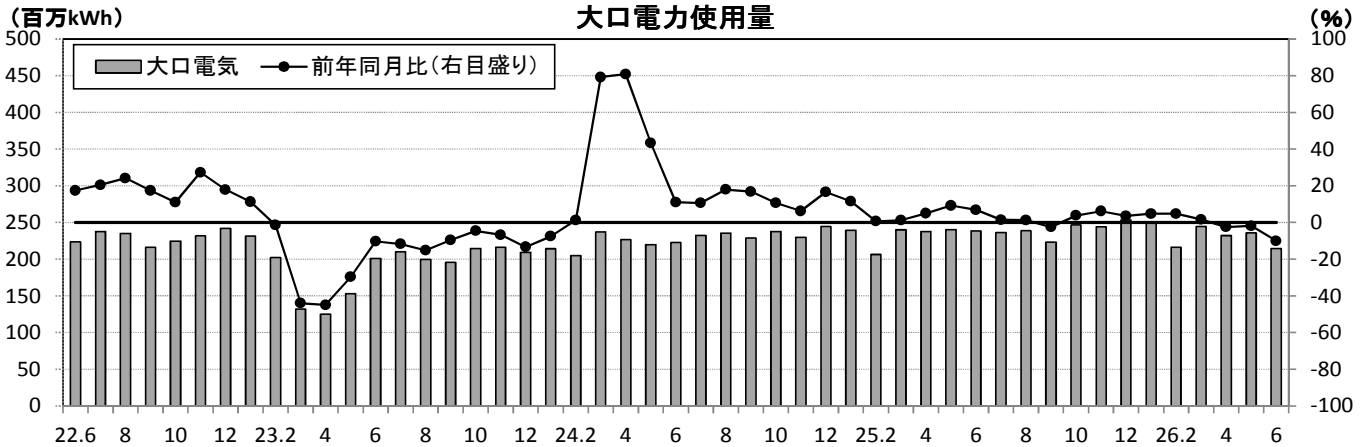
(平成22年=100)



資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-1-2) 電力使用量

平成26年6月の大口電力使用量は2億1,469万kWhで、前年同月比10.0%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。製造業、公益事業が減少したことによる。

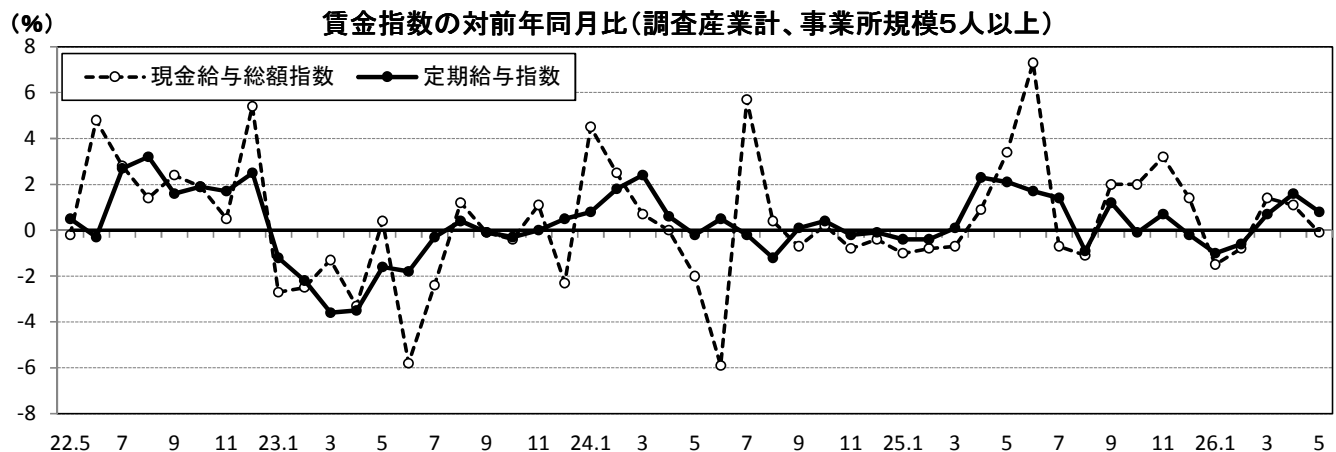


(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成26年5月の定期給与は220,281円で定期給与指数（平成22年=100）では100.1となり、前年同月比0.8%増と3カ月連続の増（現金給与総額222,300円、現金給与総額指数86.2、前年同月比0.1%減と2カ月ぶりに減）となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.5となった。

総実労働時間は155.0時間で、総実労働時間指数は100.3となり、前年同月比2.2%増と8カ月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は9.2時間で、所定外労働時間指数は101.1となり、前年同月比12.2%増と4カ月連続の増となった。



賃金及び労働時間の動き（調査産業計、事業所規模5人以上）

	実 数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	222,300 円	268,859 円	86.2	84.9	-0.1 %	0.6 %
定 期 給 与	220,281 円	260,686 円	100.1	99.2	0.8 %	0.4 %
特 別 給 与	2,019 円	8,173 円	—	—	—	8.0 %
総実労働時間	155.0 時間	143.3 時間	100.3	97.7	2.2 %	-0.8 %
所定内労働時間	145.8 時間	132.6 時間	100.2	97.2	1.6 %	-1.2 %
所定外労働時間	9.2 時間	10.7 時間	101.1	104.9	12.2 %	4.9 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

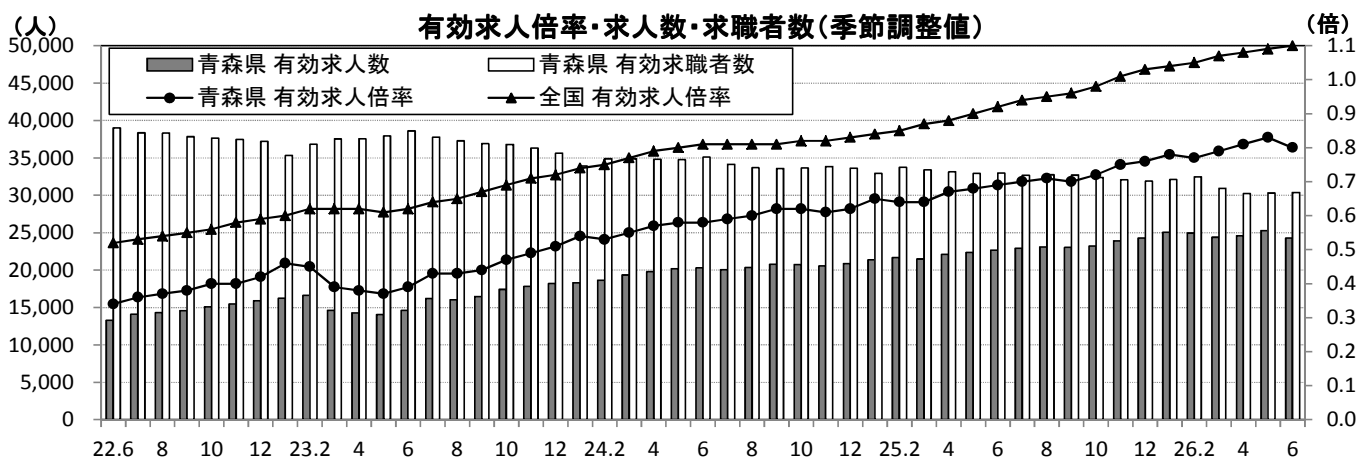
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

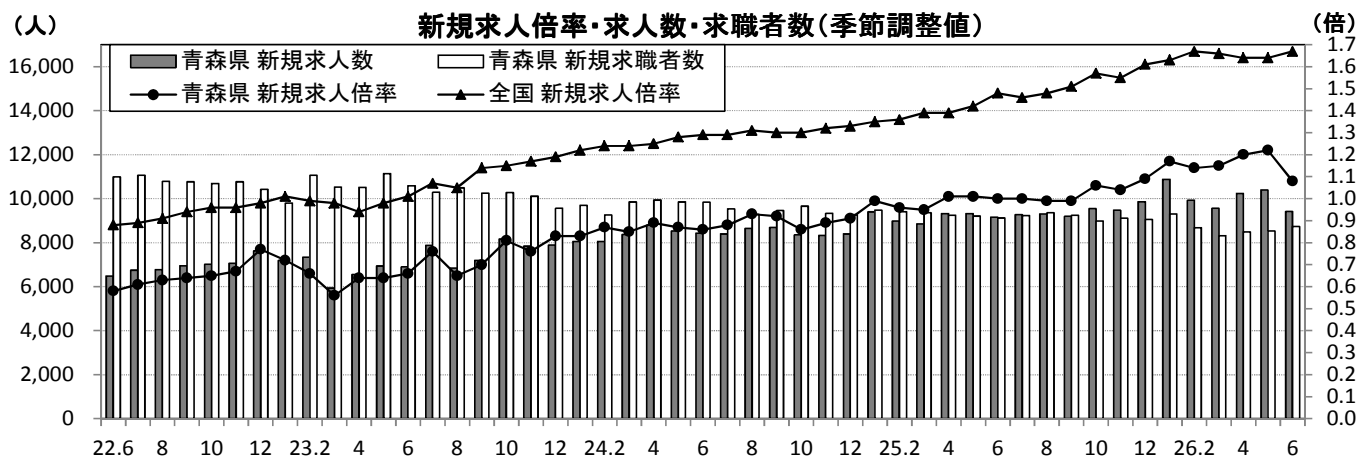
(2-2-2) 有効求人倍率

平成26年6月の有効求人倍率（季節調整値）は0.80倍で、前月を0.03ポイント下回った



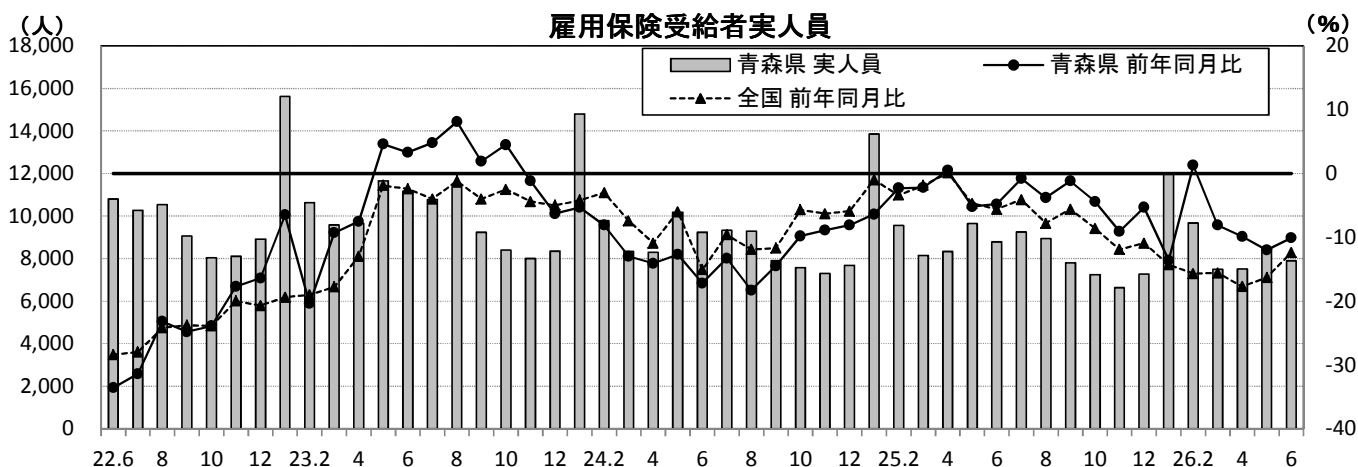
(2-2-3) 新規求人倍率

平成26年6月の新規求人倍率（季節調整値）は1.08倍で、前月を0.14ポイント下回った。



(2-2-4) 雇用保険受給者数

平成26年6月の雇用保険受給者実人数は7,897人で、前年前月比10.1%の低下となった。



(2-3) 物価

平成26年6月の青森市消費者物価指数(平成22年=100)は、総合指数が103.8となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ4.8%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は103.4となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ4.0%の上昇となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は100.2となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ2.4%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、住居、教養娯楽などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ4.8%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

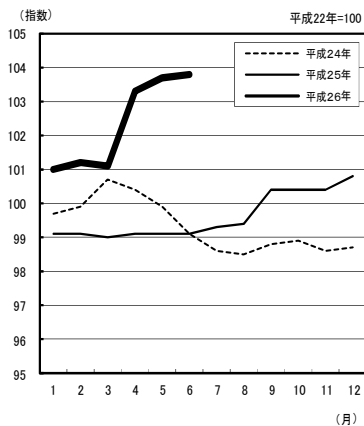


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

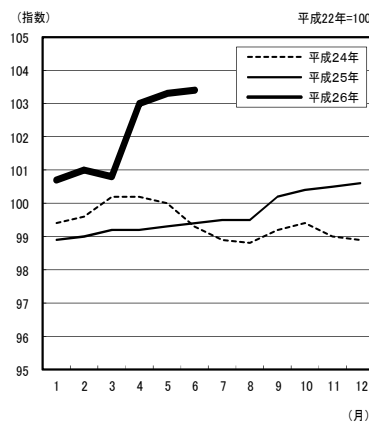
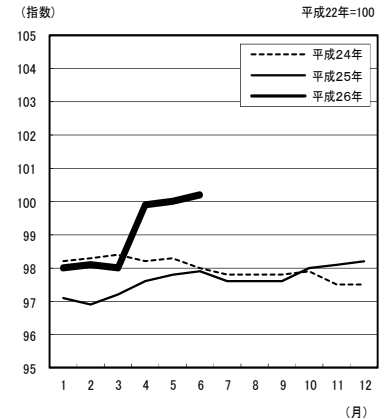


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及び エネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・ 家事用品	被服 履物	保健 医療	交通・ 通信	教育	教養 娯楽	諸雑費
当月指数	103.8	103.4	104.8	100.2	103.3	111.9	99.1	122.0	90.2	105.2	99.2	106.9	100.0	97.1	109.0
前月比 (%)	0.1	0.1	0.0	0.2	▲0.1	0.0	0.6	0.0	▲1.0	▲0.2	0.0	▲0.3	0.0	1.2	0.0
寄与度	—	0.11	0.01	0.13	▲0.02	0.00	0.11	0.00	▲0.03	▲0.01	0.00	▲0.05	0.00	0.11	0.00
前年 同月比 (%)	4.8	4.0	5.5	2.4	7.2	22.3	1.1	10.2	1.2	2.9	1.2	3.9	3.3	5.0	4.7
寄与度	—	3.86	4.68	1.52	1.84	0.90	0.22	1.11	0.04	0.11	0.05	0.53	0.08	0.47	0.30

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

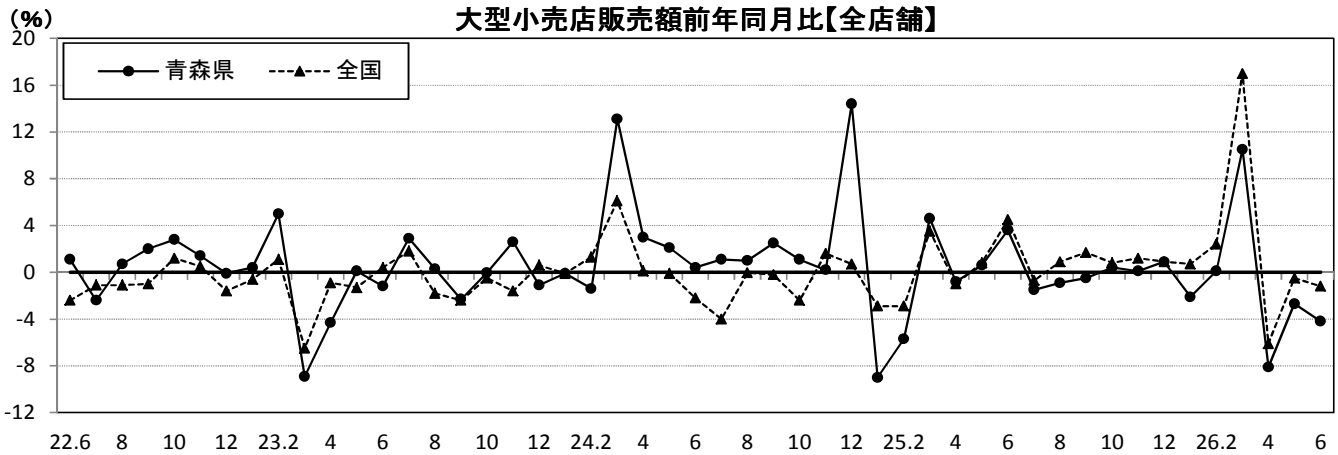
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

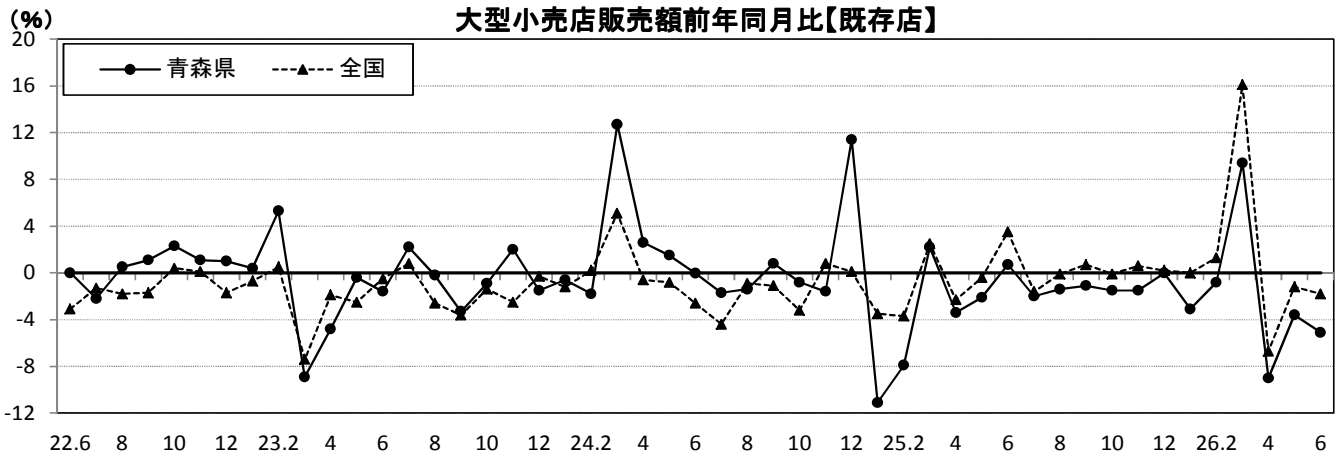
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 大型小売店販売額

平成26年6月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが142億円で前年同月比4.2%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは5.1%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。百貨店、スーパーともに減少したことによる。



資料: 東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

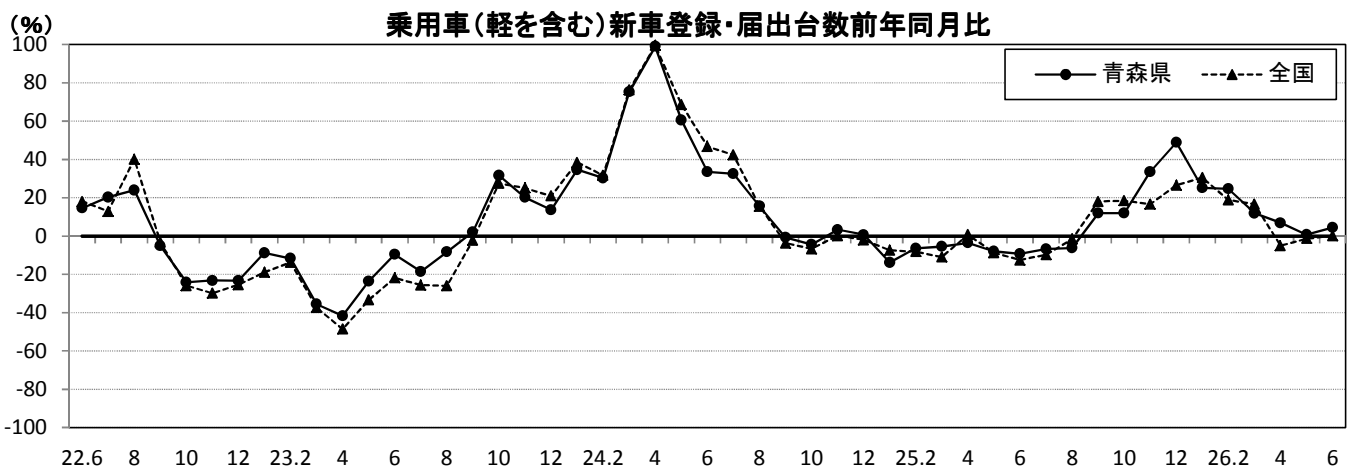


資料: 東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

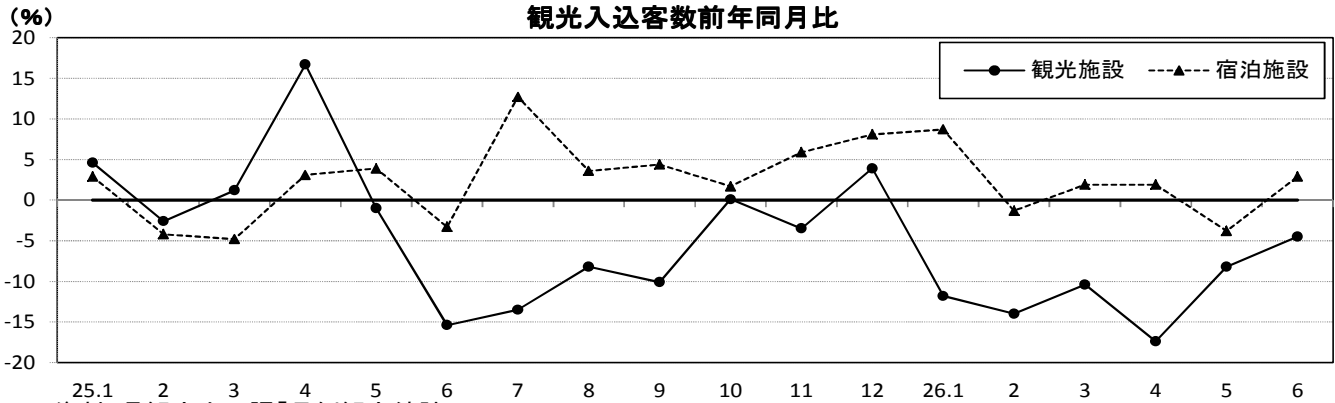
平成26年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,374台で、前年同月比4.4%増となり、10カ月連続で前年同月を上回った。普通車、軽乗用車が増加したことによる。



資料: 青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-4-3) 観光入込客数

平成26年6月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比4.5%減となり、6カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は2.9%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。観光施設は青森市などの施設で減少し、宿泊施設は弘前市、八戸市で増加したことによる。



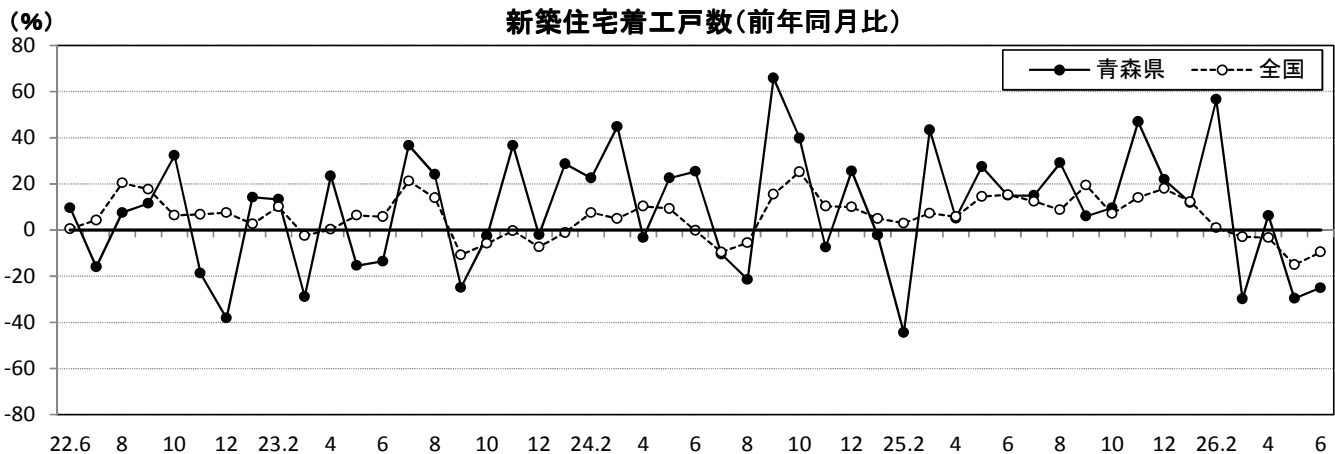
資料：県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設35施設（H23年は34施設・H24～25年は36施設対比）、宿泊施設60施設（H23年は56施設・H24年1～3月及びH25年12月は57施設・H24年10～11月及びH25年4～11月は61施設・H24年12月～H25年3月は58施設対比）

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

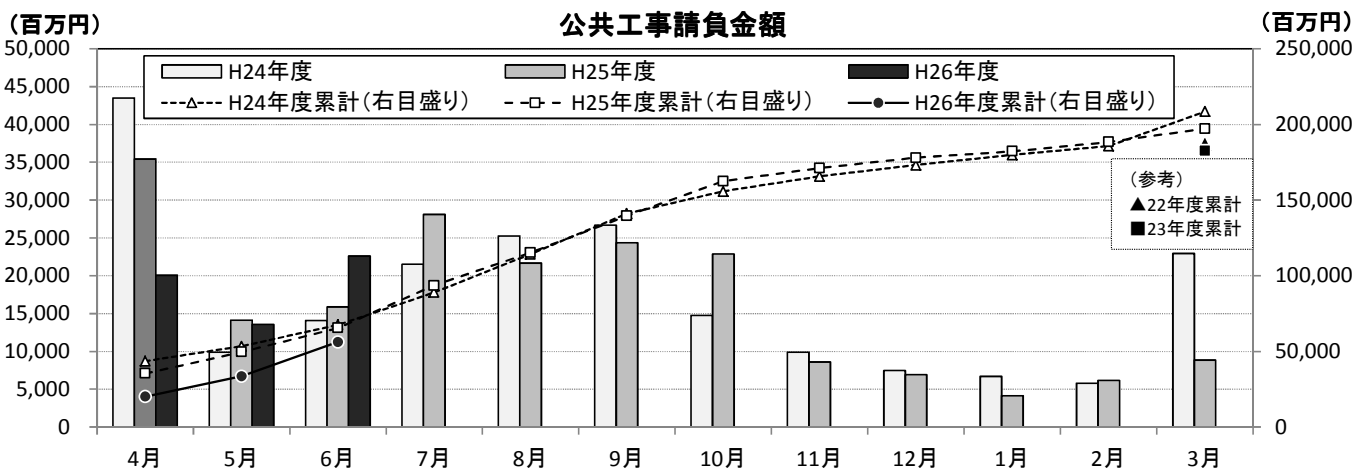
平成26年6月の新設住宅着工戸数は528戸で、前年同月比25.0%減となり2カ月連続で前年同月を下回った。持家、貸家、分譲が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-5-2) 公共事業

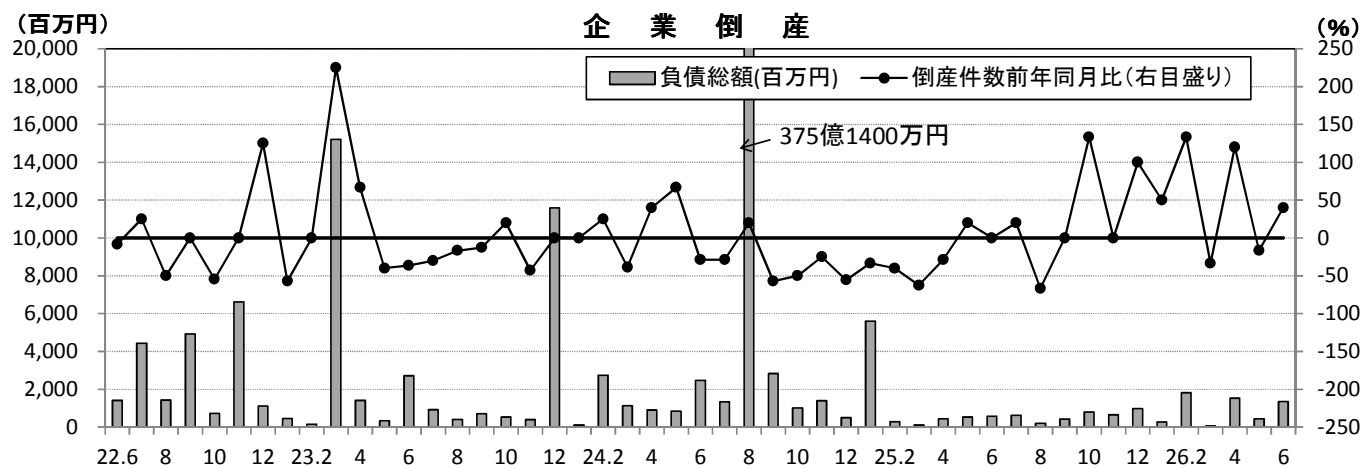
平成26年6月の公共工事請負金額は226億1,400万円で前年同月比42.2%増となり、4カ月ぶりに前年同月を上回った。また、累計請負金額は562億6,500万円で前年同月比14.1%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。



資料：東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

(2-6) 企業倒産

平成26年6月の企業倒産は、件数は7件で前年同月比40.0%増となった。負債総額は13億4,500万円
で前年同月比134.7%増となった。



資料: (株)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

(3) 青森県景気動向指数

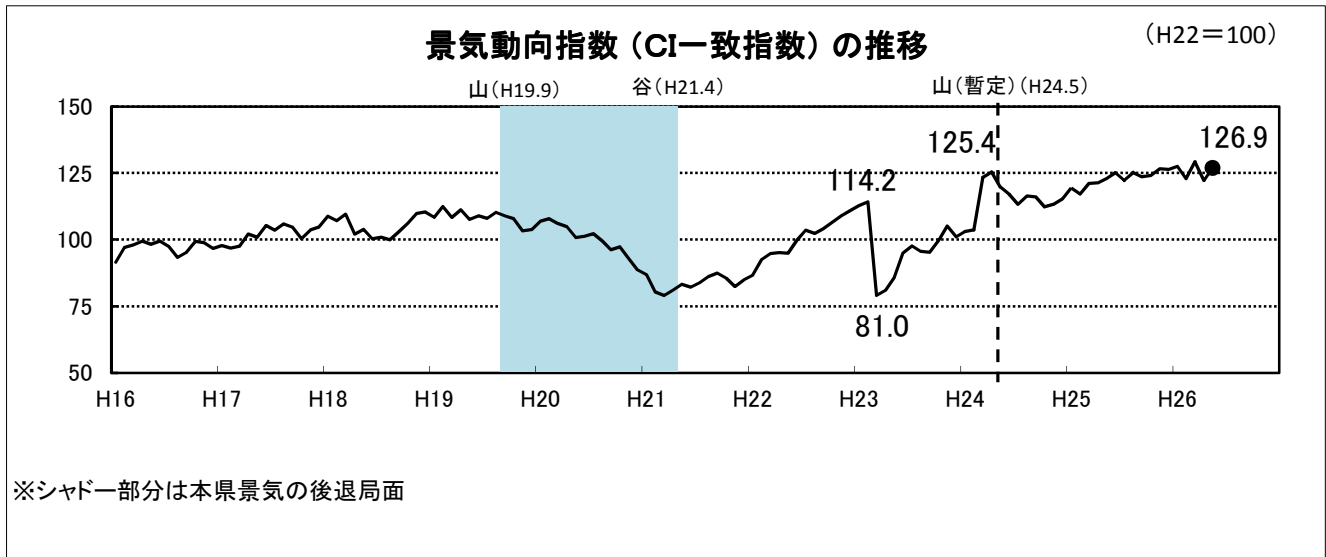
平成26年5月の青森県景気動向指数(CI)は、先行指数 105.3、一致指数 126.9、遅行指数 117.1 となった。

先行指数は、前月を 2.2 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した。

一致指数は、前月を 4.6 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

遅行指数は、前月を 4.1 ポイント上回り、4 カ月連続で上昇した。

5月の一致指数は、消費・生産・雇用関連等の指標がプラスになったことから、上昇した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

● 個加算の動きと（各指標は主観調整等を行い、寄与度を前月と比較している）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
企業倒産件数	4.81	2カ月ぶり	建築着工床面積	-3.07	2カ月ぶり
中小企業景況DI	0.65	2カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-2.23	2カ月ぶり
生産財生産指数	0.54	3カ月連続	所定外労働時間指数（全産業）	-2.14	2カ月ぶり
新規求人倍率（全数）	0.47	2カ月連続	乗用車新車登録届出台数	-1.55	5カ月連続
一致系列					
大型小売店販売額（既存店）	2.17	2カ月ぶり	東北自動車道IC利用台数	-1.42	2カ月連続
旅行取扱高	1.66	2カ月ぶり			
有効求人倍率（全数）	0.78	3カ月連続			
輸入通関実績（八戸港）	0.69	3カ月連続			
大口電力使用量	0.67	4カ月ぶり			
鉱工業生産指数	0.05	2カ月ぶり			
遅行系列					
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	3.11	2カ月ぶり	現金給与総額（全産業）	-0.98	4カ月ぶり
公共工事請負金額	1.45	2カ月連続	常用雇用指数（全産業）	-0.36	4カ月ぶり
青森市消費者物価指数（総合）	0.66	2カ月連続	りんご消費地市場価格	-0.32	2カ月ぶり
県内金融機関貸出残高	0.20	2カ月連続			

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数 (D I)

先行指数	37.5%	(3 カ月連続で50%を下回った)
一致指数	42.9%	(2 カ月連続で50%を下回った)
遅行指数	85.7%	(4 カ月連続で50%を上回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成26年7月期）

現状判断DIは、消費税増税による影響等により、前期比0.3ポイント減少の45.7となった。

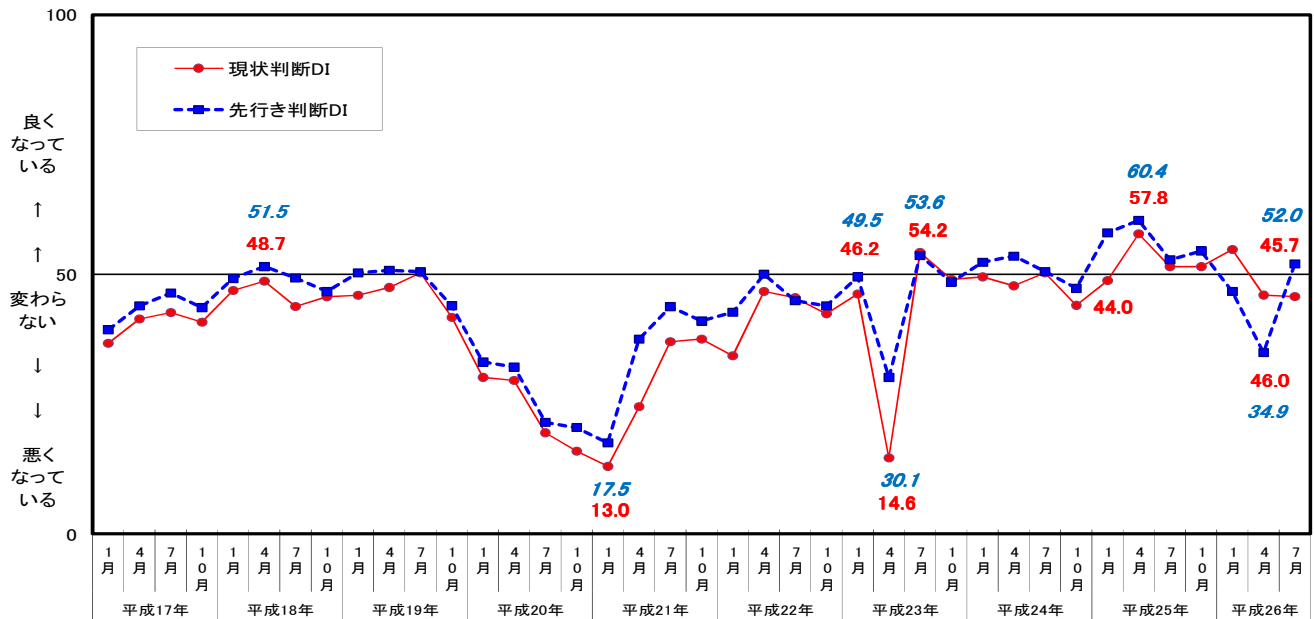
先行き判断DIは、消費税増税の影響等を懸念する一方で、回復の動きも見られることから、前期比17.1ポイント増加の52.0となった。

3カ月前と比べた景気の現状判断DIは、前期調査と比べて0.3ポイント減少の45.7となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、前期調査と比べて17.1ポイント増加の52.0となり、景気の横ばいを示す50を3期ぶりに上回った。

（調査期間 平成26年7月1日～7月11日 回答率 99%）

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3カ月前と比べた景気の現状判断

前期調査と比べると、「良くなっている」と「やや良くなっている」が横ばい、「変わらない」が3.0ポイント減少、「やや悪くなっている」が5.0ポイント増加、「悪くなっている」が2.1ポイント減少したことにより、全体では0.3ポイント減少の45.7となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。

判断理由では、プラス面、マイナス面ともに消費税増税による影響をあげる声が大半を占めた。プラス面では、増税の影響も落ち着き、駆け込み需要の反動減から回復傾向にあるといった声があり、マイナス面では、増税による買い控えや受注数の減少、景気を押し上げるだけの消費行動は見られず上向き感は薄いといった声があった。

地区別では、前期調査と比べて、東青、県南地区で増加、津軽、下北地区で減少した。東青以外の全地区で景気の横ばいを示す50を下回った。

● 3カ月後の景気の先行き判断

前期調査と比べると、「良くなる」が横ばい、「やや良くなる」が13.0ポイント増加、「変わらない」が28.1ポイント増加、「やや悪くなる」が26.7ポイント減少、「悪くなる」が14.3ポイント減少したことにより、全体では17.1ポイント増加の52.0となり、景気の横ばいを示す50を3期ぶりに上回った。

判断理由では、消費税の増税、ガソリンや電気・ガス料金の値上げなどの影響を懸念する声や、良くなる材料が見当たらないといった声が多くあった一方で、増税により大きく落ち込んだ売上げが回復基調にあるという声や、次の増税を見込んだ需要を期待する声もあった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが大きく増加した。東青、県南地区では3期ぶりに景気の横ばいを示す50を上回ったものの、津軽地区は4期連続、下北地区は3期連続で景気の横ばいを示す50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎ 消費税も落ちついた。事前の対処法もあっていたと思う。(一般飲食店=東青)
- ◎ 宿泊者増、単価増のため、消費額が増加傾向にある。(観光型ホテル・旅館=県南)
- 消費税増税前の駆け込み需要から4月、5月と消費は低迷していましたが、6月中旬頃から徐々に消費動向が回復。(スーパー=東青)
- 消費税増税直後は売上減でしたが、6月以降は回復(増額)しつつある。(観光型ホテル・旅館=津軽)
- 企業全般に稼働率が上がり、雇用環境もタイトになってきている。(経営コンサルタント=県南)
- 消費税アップの影響が続いていると思います。(タクシー=東青)
- 消費税導入(U P)以降、消費動向が上向いてこない。(都市型ホテル=津軽)
- 4月に入り客足が悪く、5月と駆け込み需要の反動が出ているのかと思いましたが、6月には、いくらか持ち直しています。(衣料専門店=県南)
- △ 増税による消費減退は深刻です。(衣料専門店=東青)
- △ 消費税アップ前の2月、3月の強烈なアップ分が4～6月でなくなってさしひきマイナスになってしまったので。(一般小売店=津軽)
- △ 消費税の影響か、たばこ、酒を買い控えている様に感じる。(コンビニ=県南)
- △ 消費税増税に伴う駆け込み需要の後遺症も落ち着いたと感じるが、景気を押し上げるほどの消費行動は見られず上向き感は薄い。(食料品製造=東青)
- △ 消費税の増税後の受注数が減少している。(広告・デザイン=津軽)
- △ 増税による買い控えが顕著。(飲料品製造=津軽)
- △ 消費税による圧迫感、原油高などによる生活用品、食品への値上がりは台所を苦しいものにしている。(新聞社求人広告=津軽)
- × 電気・ガスの値上げや、ガソリンの値上げ、食費増でお客様のサイフの紐は堅く、景気が上がっているという実感が無い為。(スーパー=県南)

● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- ◎ 今後も計画をたてているので良くなると思う。(一般飲食店=東青)
- 増税需要の反動減により大きく落ち込んでいた売上げが回復基調に転じているため。(家電量販店=東青)
- 駆け込みの反動が減少していると考えている。(乗用車販売=津軽)
- 消費税増税後のおちつき、次の増税を見込んだ需要。(住宅建設販売=県南)
- 建設関係の会社は、受注残があり、冬まで工事残がある。小売関係の会社も前年に比べて減少していない。(経営コンサルタント=津軽)
- 民間建築物件は少なく動きが鈍く、増える見通しはなく、公共物件に期待感あり。(設計事務所=東青)
- 良くなる材料が見当たらない。(商店街=津軽)
- 消費税増税の影響について、6月をひとつの目途として考えていたが、7月に入っても消費傾向は全く変わらず、今後も急速な回復はないと考えている。(百貨店=津軽)
- 駆け込み需要の反動がもっと続くと思っていたが、思っていたより3ヶ月先は、昨年並くらいにはもどっているのではと思います。(衣料専門店=県南)
- 電気・ガスやガソリンの値上げ、食費増でお客様のサイフの紐は堅く、景気が上がっているという実感が無い為と、冬に向けて光熱費が重なり、更に各家庭内での節約志向が高まると考える為。(スーパー=県南)
- すぐに好転する様な材料が見あたらない。(都市型ホテル=下北)
- △ 円安のため、海外からの食材が値上がりしており、まだまだ落ち着きそうにない。(レストラン=東青)
- △ 5,000円のものが、5,250円から5,400円になるのは心理的に消費に悪い影響を与える。(一般小売店=津軽)
- △ 当初の予想では、夏場に向けて消費税増税の影響は薄れてくるとされていたが、現状では、食料品は少し上向いて来ている他は良くなってはいない。(百貨店=県南)
- △ 今は夏場で灯油代がかかりませんが、灯油を使う季節が来たら増税分でさらに消費にまわすお金に余裕が無くなると思われます。(一般小売店=下北)
- × むつ市の国保の値上げ、増税。(コンビニ=下北)

記号の意味: ◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」